

令和4年度第2次補正  
探究的学習関連サービス等利活用促進事業費補助金

探究的な学び支援

補助金2023

## 効果報告レポート

【事業者名】

日本電気株式会社

株式会社ワイイーシーソリューションズ

【サービス名称】

学びの様子の見える化による支援

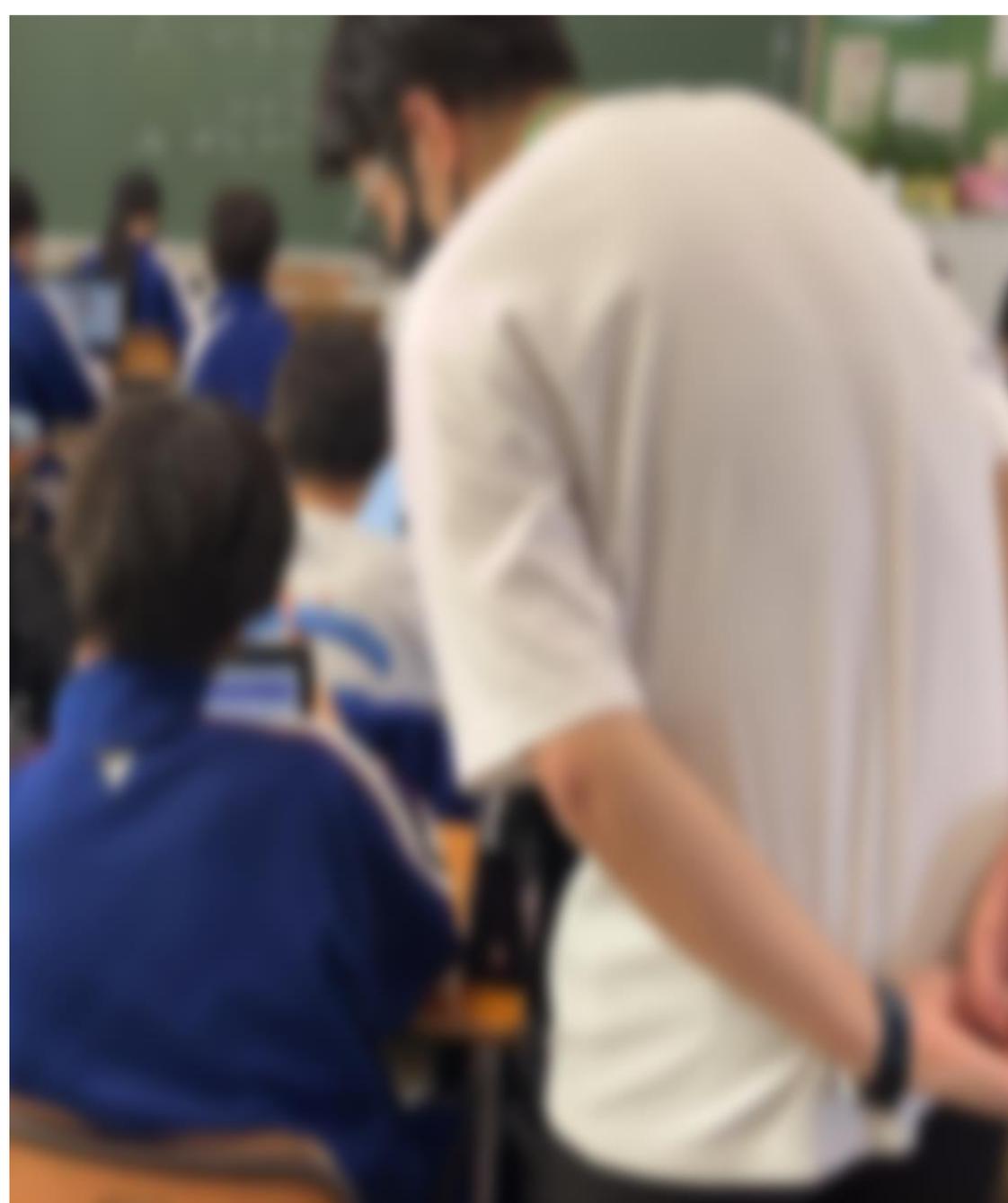
学びの探究会議ファシリテートサービス

【サービスの機能分類】

区分 A-1 メインサービス

区分 A-2 オプションサービス

2024年1月



## ■探究学習等サービスの概要

### ○学びの様子見える化による支援

本サービスでは、学習者が1人1台端末を使って自由に教職員に相談したり1人1台端末を使った自身の学びの様子を振り返ることが出来ます。

#### ■主なサービス内容

○アンケート機能による児童生徒の  
様子の把握やお知らせ機能を使  
ったみとりの支援

○端末利用状況レポートから  
児童生徒が自分自身の  
学び方を把握・分析



教員が設定した閾値に合致する利用やアンケート回答があった場合

教員向け管理画面で  
お知らせ通知を確認

利用時間と操作量のTop 5の  
アプリを確認可能。  
児童生徒が自分自身を振り返る  
きっかけに！

### ○学びの探究会議ファシリテートサービス

探究的な学びの授業において学習者の発言の促進やコミュニケーションを活性化させるためのファシリテート手法等について教職員を支援しスムーズな探究的な学びを実現します。教職員の課題解消を目的とし授業デザイン、ファシリテート手法、授業結果を踏まえて次の授業をどう進めるべきかのフィードバックなどの支援を提供します。

#### ■主なサービス内容

##### ○会議デザイン

会議当日のゴール設定・進め方などを事前に作成します。

##### ○ファシリテーション

ファシリテーターを派遣し、会議を進行します。

(例：他学校、他学年の教職員を巻き込んだ多面的な議論ができるような会議設計やその進行)

##### ○フィードバック

会議内容の議事提出や次回会議に向けた支援を行います。



- ・分析された授業データをどう活かせばよいかわからない…
- ・探究授業が進んでいる教職員はどのように授業をしているかうまく共有できていない…

## ■探究学習等サービスの概要

### ○サポートサービス（授業の様子分析および説明・質疑対応等）

教職員に指示頂いた授業の様子についてデータ分析を行い、必要な説明や議論等を行います。  
またChatを用いるなどして、担当の教職員からの質疑に迅速に対応します。

### ●授業の様子分析に関する説明・議論

- ・教職員への分析結果の詳細説明やヒアリング、議論
- ・授業の現地視察と実施した授業に対する議論
- ・分析に対するフィードバックの提供
- ・会議のファシリテート補助

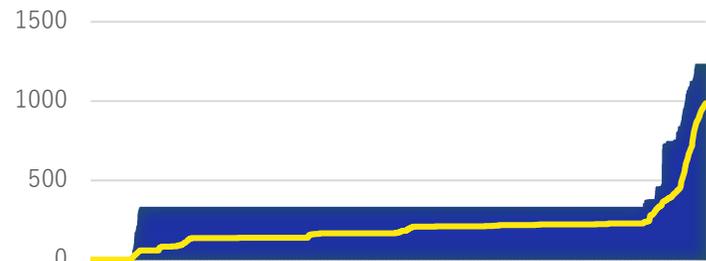
### ●説明・議論に向けた事前の説明、質疑対応、資料準備

- ・教職員へサービスの概要や使い方をレクチャー
- ・Tableau、独自ツールを利用した手作業での授業分析
- ・分析資料作成作業
- ・サービスに対する質問への回答
- ・授業情報や授業の流れの共有

クラス全体の利用アプリの遷移



児童生徒1人1人の活動量の遷移



教職員の見取りと合わせることによって  
データが指導の振り返りや検討の材料に！

●児童生徒

課題

自ら成し遂げたい目標を描き、そのために何をどのように学ぶのかを考え相談することができるよう、教職員に自由に相談できる環境と、自分の頑張りや姿勢を客観的に把握できることが必要。

解決策

アンケート機能では毎日簡単かつ気軽に教職員に相談ができ安心した学びの環境づくりに貢献！  
児童生徒レポートでは自分自身の変化を細かく振り返ることが可能！  
⇒端末の利用状況から自分の頑張りを時系列で確認したり、自身の目標を考える際の材料として活用。

●教職員

課題

- ・児童生徒1人1人を多角的な面から、一人の教職員がみとるのは難しい。
- ・授業中、児童生徒1人1人の学びの様子を把握することはなかなかできない。
- ・探究的な学びを実現するための効果的な指導技術を向上させることが難しい。

解決策

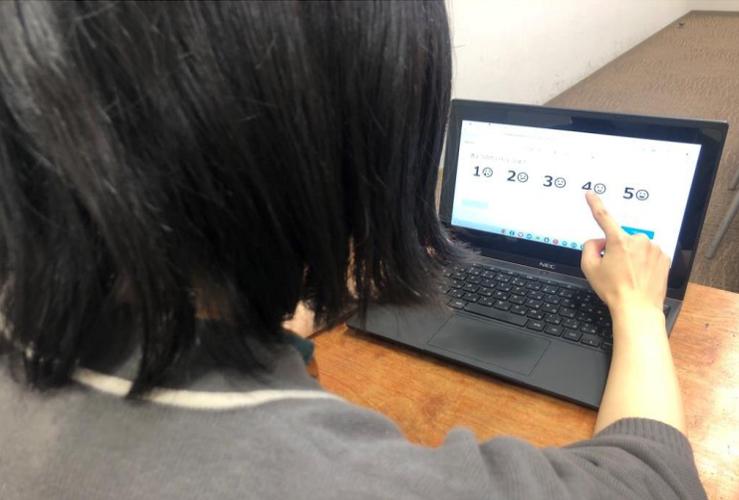
アンケート機能では教職員のみとりに加えて、日々のデータからも児童生徒の様子を観察可能に！  
⇒教職員の気づきの促進へ！  
授業の分析では、自身の授業データを用いて他学校・他学年の教職員とデータを用いた議論が可能に。  
⇒先進的な取り組みが行われているデータを多角的な面から分析して効果的な指導技術の創出へ！

# ■ 探究的な学び支援補助金における活用場面

## 学びの様子の見える化による支援 1/2

児童生徒が、日々の体調や気分などをアイコン・短文で教職員に伝えることで、児童生徒の様子について教職員の気付きを促進。声がけなどのコミュニケーションに繋がり、より安心して学びに取り組める環境作りを支援。

アンケートに回答している様子



教職員画面で確認ができるアンケート結果

氏名	11/12	11/13	11/14	11/15	11/16
日電太郎	×	☹️ 3 ふつう	😊 4 げんき	😊 4 たのしい	😊 4 げんき
				☹️ 2 やなこと...	☹️ 3 ふつう

やなことがあって  
元気がない

### 活用の流れ

- 朝の時間、教職員が作成した任意のアンケートを児童生徒が回答。  
アンケートは自動配信されるので期間を定めれば毎日配信操作をする必要がありません。
- 教職員がアンケート結果を確認して、気になる児童生徒へ声掛けや面談を実施。

【実施頂いた小学校の教職員のコメント】  
 普段教職員にも直接相談しない子がアンケートから悩みを書いてくれて相談に乗ることができた。

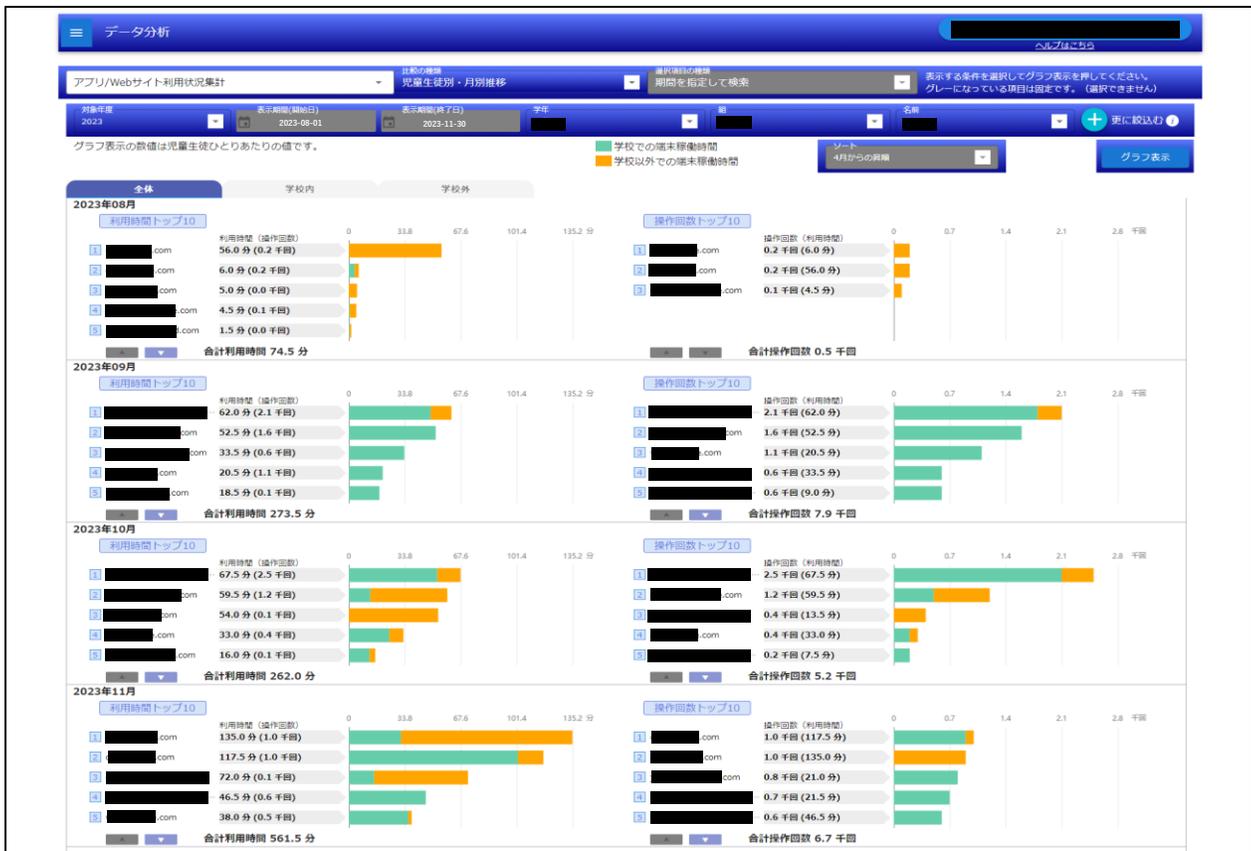


# ■ 探究的な学び支援補助金における活用場面

## 学びの様子の見える化による支援 2/2

アプリケーションやWebサイトに関する自身の利用集計のレポートを見ることで、自分の頑張りや興味に気づいたり、実行目標を考える材料となる。

### ● 実際に活用した児童生徒個人の利用状況レポートの画面



### 活用の流れ

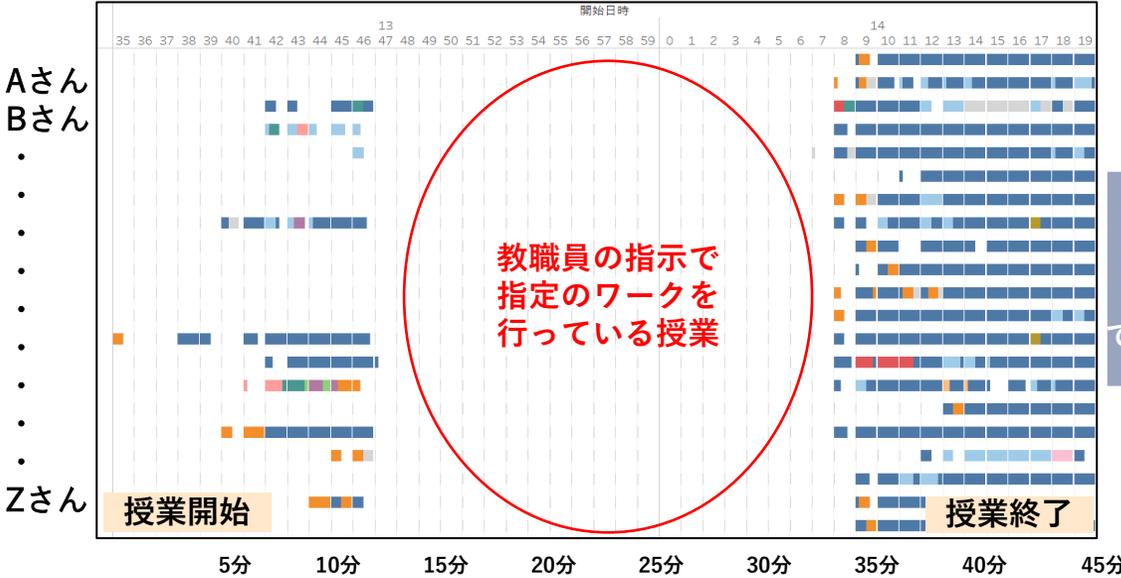
- 児童生徒に1人1枚、個人の端末の利用状況レポートを作成、配布  
月ごとの自身が利用したアプリケーションの「利用時間」と「操作量」のTop10がそれぞれ確認できます。
- 児童生徒は実際のレポートから、自身の日ごろの活動を数値で確認

**【実際の活用方法】**  
総合的な学習の時間で、レポートをもとに自身がどのサイトを利用して「情報の収集」を行うことが多いのかを考えさせ、場面に応じてサイトをどう使い分けるのかを考えさせることができた。

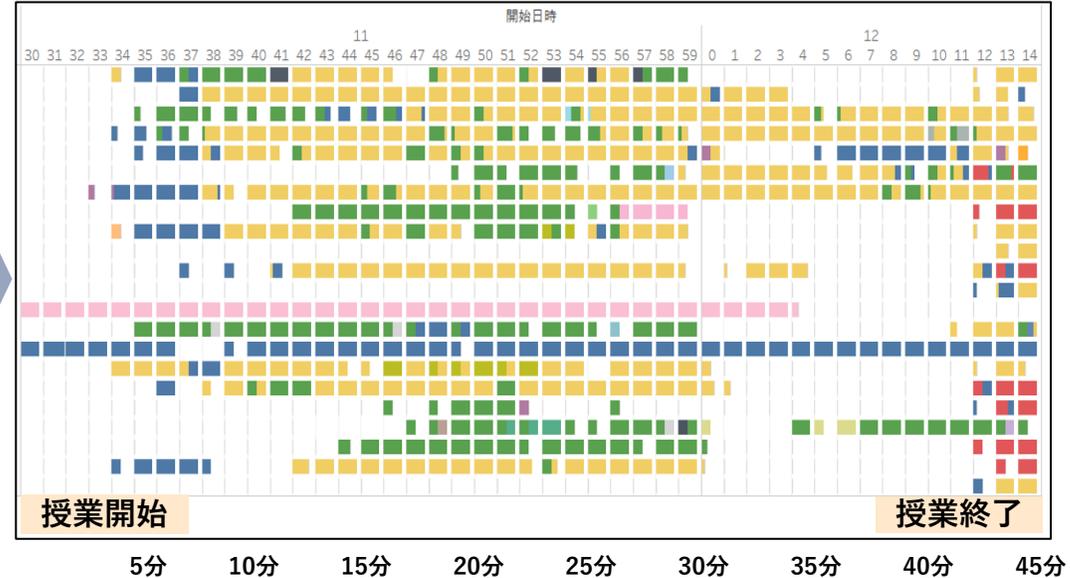
学びの探究会議ファシリテートサービス+サポートサービス（授業の様子分析および説明・質疑対応等）

- ・ データから教職員自身の授業中の様子を俯瞰的に振り返ることが可能に！
- ・ 他学年や他学校の教職員との議論の機会を創出。  
⇒ データを多角的な面から分析することで効果的な指導技術の創出へ！

教職員の指示で指定のワークを行う時間が  
多い授業



授業を通して児童一人ひとりが**自身のタイミングや判断で学習方法を選択している授業**



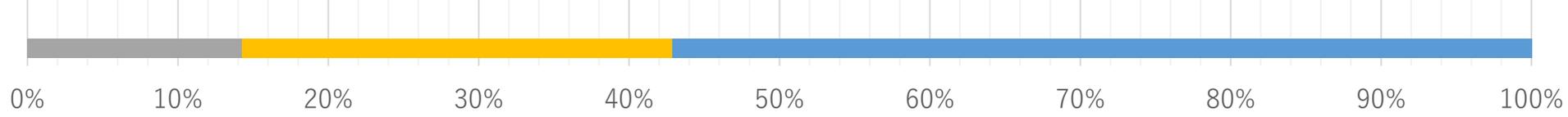
上記の2つの図はともに**同じ教職員の45分間の授業の様子**。ファシリテートサービスでの議論が、右の授業実践を挑戦してみようという教職員の取り組みにつながった。

学校等設置者名	学校等教育機関名	利用人数
東村山市教育委員会	大岱小学校	407名
	萩山小学校	387名
	東村山第一中学校	398名
	東村山第三中学校	441名
	東村山第五中学校	550名

【教職員へのアンケート】

○（アンケート機能に関して）より安心して学びに取り組める環境がつけられたと感じたか？

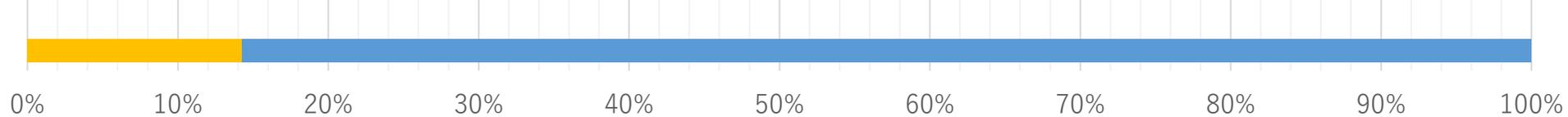
■ まったく思わない ■ 思わない ■ どちらともいえない ■ まあそう思う ■ とてもそう思う



N = 7

○打合せ（ファシリテート）での議論が、授業を振り返ったり、探究的な学びの取り組みをより考える材料となったか？ <コンソーシアムでの取り組み>

■ まったく思わない ■ 思わない ■ どちらともいえない ■ まあそう思う ■ とてもそう思う

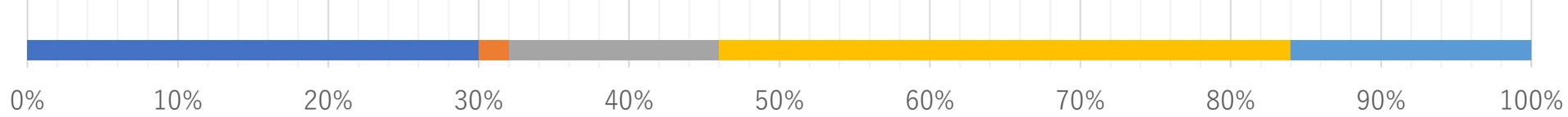


N = 7

【児童生徒へのアンケート】

○アンケート回答は教職員に話したいことを伝えたり、相談したりすることができたか？

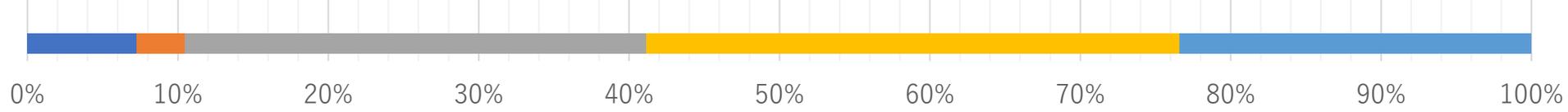
■ しなかった ■ しようと思ったけどできなかった ■ これからしようと思う ■ 話すのと同じくらいできた ■ 話すよりもできた



N = 50

○実際の集計レポートを見て、自分の頑張りや興味に気づいたり、勉強方法や目標を考える参考になったか？（またはなると思うか？）

■ まったく思わない ■ 思わない ■ どちらともいえない ■ そう思う ■ とてもそう思う



N = 124

## ■サービスを活用するにあたっての課題とその改善策

No.	課題	改善策
1	毎朝アンケートを実施する時間を創出するのが難しい。	朝学習がある日は朝学習の時間を使って実施する。全校朝礼など朝学習の時間が取れない日は引き続き課題。⇒児童生徒へのアンケート回答が習慣づきやすい使い方・時間帯・質問数などを検討し試していく。
2	先生方は日々多忙なため、複数の先生方を集めた会の実施は、機会を作るのが難しい。	先生方の都合に合わせてオンライン会議と対面会議を使い分けていく。また参加する先生の人数は固定としない。
3	児童生徒自身にもっとモチベーションや自分事として自身の学習について考えられる要素がほしい。	児童生徒レポートへ他児童生徒の状況を比べられるような「クラス平均」「学年平均」の考え方や、過去の自分と比べられるような要素を今後検討する。
4	どのようなデータをどの形で利用することが多忙な先生方にとって最適か、まだはっきりと言えない。	既存の分析方法に加えて、新たなデータや見せ方を今後検討していく。
5	児童生徒のアンケート結果を確認する欄に関して、一度に見える児童生徒の数が少なく確認がしにくい。	サービス画面上の一度に見える児童生徒の数を増やすことを検討する。
6	サービスを利用する際の、必要な環境構築作業において、児童生徒の所属情報（学年、クラス、氏名、メールアドレス等）確認に時間がかかる。	児童生徒の所属情報について、学校や教育委員会から個別に入手する以外の簡易の方法を今後検討していく。

## ■ サービスを活用した児童・生徒・教職員等のコメント感想等

### 【教職員のコメント】

#### ● 学びの様子の見える化による支援について（アンケート）

- ・紙のアンケートでは学期に1回しか機会がなく、児童からも思い出せないなどコメントをもらうことも多々あったが、今回のアンケート機能では、児童が気軽に教職員に相談できるようなので毎日様子が見れてよかった。
- ・対面ではできなかったと思われる相談も、アンケートだから相談が来たケースが多々あったので良かった。
- ・気軽に相談できるので、子供たちの安心材料になっていたと思う。

#### ● 学びの様子の見える化による支援について（児童生徒レポート）

- ・振り返りにつながると思う。児童自身が改めて自分で見るとよいと思う。
- ・5年生だとしっかりしているので、（レポートを見たことによって）モチベーション向上につながりそう。
- ・今回のレポートのように数値で自分の結果が見れるのは初めてなので、子供たちにとってもいい機会だと思う。
- ・定期テストのタイミングやタブレットを学習で使うシーンが増えてくると、学習を振り返るきっかけになりそう。
- ・先生目線だと、子供の端末の実際の利用が見えたので、授業改善に繋がると感じた。  
生活指導だけでなく、保護者の方にも面談時にタブレットを使った児童の学習の取り組みなどが共有できそう。
- ・ある生徒は、データの結果に「（先月よりも）自分は変わったぞ！」という自信を見出せていた。

#### ● コンソーシアムとしての支援について（ファシリテートサービス・サポートサービス）

- ・他校の先生の授業の分析と様子を見た際に、刺激となり、自身の授業の進め方を子供たちになるべく委ね、児童自らが主体的に取り組む授業にチャレンジを始めました。
- ・他校の取り組みの様子が見えたのは勉強になった。自分自身の授業が一斉型になっていたことに気づいた。  
もっと子供に任せた授業にする必要があると考えさせられた。
- ・今までは難しいと思っていたツールの扱いが、やってみたら意外にも簡単にできた。今回のファシリテートがその取り組みがきっかけとなったので自身としてよい経験になった。
- ・他校の取り組みの共有は、普段訪問する機会がなかなかないので、非常に刺激になった。  
自分のクラスでもいくらかできそうな気がする。今後の授業を考える材料になった。

## ■サービスを活用した児童・生徒・教職員等のコメント感想等

### 【児童生徒のコメント】

#### ●学びの様子見える化による支援について（アンケート）

##### ◆アンケートを使って先生に悩みを相談できた児童について

- ・緊張せずに（相談が）できるからいい。
- ・先生に直接言えなくても言えるからいい。
- ・普通に話すと友達がいるからアンケートの方が（先生に悩みや相談を）言いやすい。
- ・（アンケートの方が）先生に今日の気分を伝えやすい。
- ・誰も見ていないからいいやすい。
- ・直接言うより簡単だから！楽！

##### ◆アンケートを使って先生に悩みを相談できなかった児童について

- ・悩みがないから。
- ・（相談したことが）どこに伝わるかわからないから。
- ・自分で考えているから。

#### ●学びの様子見える化による支援について（児童生徒レポート）

- ・係りの仕事でこんなに家で（タブレットを）使っていたんだということが分かった。
- ・（自分が）タブレットドリル（アプリ教材）をよく使っていることが分かってよかった。
- ・委員会の仕事で暇なときに、scratchを使っていたのもう少し（使い方を）改善した方がいいことが分かった。
- ・（データを見て）自分でこうしようと思っていた通りに端末を使えていたことが確認できた。
- ・学校で使用している時間は多かったが、家で使用している時間が少なかったため、せっかく貸してもらっているのなら、もっとタブレットを使っての学習ができるといいなと思った（家でも学校でも）。
- ・外部で学校のタブレットを使うのは、学校の課題に取り組むときが多かった。また、よく興味を持ったことをGoogleで検索していたのが分かった。
- ・夏休みに時間があることでYouTubeを見てしまったり、学習のことで使うこともあったけど関係ないものを見ていたと反省はしている。
- ・このレポートを見ることで、自分はどんな種類のサイトを見ているかなどを把握できるのでいいと思った。  
こういう機会に興味が見つかるのはいいなと思った。
- ・YouTube利用時間が結構多いと思ったので、今後から控えて勉強に取り組みたいと思った。

会社名	日本電気株式会社	株式会社ワイイーシーソリューションズ
所在地	東京都港区芝5丁目7番1号	神奈川県横浜市中区山下町22番地
資本金	4278億円(2023年3月31日現在)	5000万円
代表者	取締役 代表執行役社長 兼 CEO：森田隆之	代表取締役社長：岩崎壽信
事業内容	ITシステムやNWシステムの提供。社会インフラを提供。ITソリューションの提供。NW構築に必要な機器や運用管理のため基盤システム、運用サービスなどの提供。セーフアーシティ、サービスプロバイダ向けソフトウェア・サービス、海洋システムなどの提供。	システム構築・開発 アウトソーシングサービス ソフトウェアプロダクト開発・販売ハウジング・ホスティング・ASPサービス 労働者派遣事 その他付帯する一切の業務
売上	単独 1兆7,756億円 連結 3兆3,130億円 (2022年度実績)	55億2百万円 (2022年度3月期実績)
従業員数	22,036名(2023年3月末現在)	213名 (2022年度3月期実績)
ホームページ	<a href="https://jpn.nec.com/">https://jpn.nec.com/</a>	<a href="https://www.yec.ne.jp/">https://www.yec.ne.jp/</a>
問い合わせ窓口	<a href="mailto:manamie_service@mlsig.jp.nec.com">manamie_service@mlsig.jp.nec.com</a> (本効果報告レポートの事業・サービスについてのお問い合わせ窓口となります。)	